

第2回家庭教育支援指導者等研修 実施レポート

日時：令和4年7月6日（水）10時～15時 参加者：56名（うち市町村等から34名）
会場：秋田県生涯学習センター講堂

今年度2回目となる本研修は、「家庭が前向きになるかわり方やつながり方を学ぼう」というテーマで実施しました。家庭教育支援に携わる方々が、現在も家庭教育の大きな課題の一つである家庭でのインターネット、SNS、動画利用に保護者とともになにかかわるべきかについてや、保護者や子どもたちとかわる際に有効なカウンセリングマインドの手法について、講話や演習を通して学びました。

【午前の部 講話・演習】

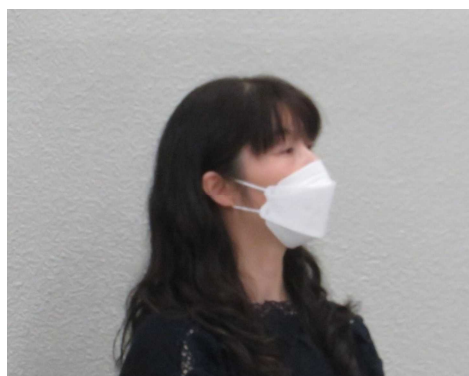
「子どもたちのインターネット利用について考える研究会」事務局**高橋 大洋**氏より「子育て課題としてのネットデビュー～中学生のSNS・動画利用に保護者はどうかかわるべきか～」と題して講話をいただきました。はじめに、秋田県が毎年実施しているインターネット利用実態調査の結果をもとに、ネット利用の現状を説明されました。参加者は、個々の家庭でのネット利用のルールづくりが年々すすんでいるという現状を知り、驚いているようでした。次に、大人がネット利用をする子どもにどのようにかわればよいのかを説明されました。ネットの特性を把握し、開かれた利用、協働や創造へと誘うことが大人に期待されていることだと述べられ、参加者に大きな示唆を与えてくれました。最後に、子どもたちのネット利用に対する具体的な取り組み方の糸口についてお話されました。大人自身も利用者の一人であること、大人に求められる態度は「同じ一人の利用者として接すること」であるとし、家庭では大人も一緒に守れる範囲のルールをつくることが大切であるとまとめました。



【午前の部 参加者アンケートより】（抜粋）

- ・ネットやSNSをただ子どもにとって悪害とするような教育の仕方は終わり、今後時代を生きていくツールとして身につける必要のあるものだという事を知りました。子どもの好き・楽しいを受け止めながら親も一緒に共有し、ときには子どもに教わりながら開かれた利用をしていきたいと思っています。
- ・子どもにルールを押しつけるばかりでなく、大人も一緒に付き合い方を学んでいく必要があると感じました。

【午後の部 講話・演習】



横手市不登校適応指導教室教育相談員である**佐藤 さゆ里**氏より、「コミュニケーション能力を引き出すカウンセリングマインド」と題し、講話をいただきました。はじめに、先生が出会った具体的なケースを紹介しながら、カウンセリングにのぞむ態度や家庭教育におけるカウンセリングマインドの効果について説明されました。相談に訪れた保護者や子どもたちが、聴いてくれる人との出会いや、がんばっている日々をねぎらってもらえることによって、保護者が勇気づけられたり、子どもたちが前向きな心の変化を遂げたりすることを実例を紹介しながらお話されました。また、演習「わたしの四面鏡」「ねぎらいのイエスセット」では、参加者が「言語のコツ」について

体験しました。相手の「よさ」を言葉にして伝えることで、適切な自己イメージや自己肯定感をもつことができることやねぎらいの言葉の大切さについて、体験を通して学ぶことができました。最後に「人はたった一人の出会いによって変わる。皆さん自身が誰かにとっての『たった一人』かもしれない」と結び、家庭教育支援に携わる参加者全員にカウンセリングマインドがある家庭教育について示唆を与えてくれました。

【午後の部 参加者アンケートより】（抜粋）

- ・悩み事や心配事について傾聴し、ねぎらい肯定的にアドバイスすることで相談者に対して、ゆとりや穏やかさをもたせて家庭教育に生かせることがわかった。
- ・カウンセリングマインドの重要性がわかった。家庭教育事業の担当者としてだけでなく、行政職員・一人の人間としても役立つと思うので、今日のお話で教えていただいたコツを様々な場面で使っていきたい。